



化粧直して一段と輝く測量用航空機「くにかぜ」初号機

CONTENTS

1. G空間EXPO2026「G空間がつなぐ、広がる、未来が変わる」開催報告 2
2. 第17回地理院地図パートナーネットワーク会議を開催 4
3. 令和7年度第2回国土地理院研究評価委員会を開催 5
4. 第250回地震予知連絡会の開催概要 6
5. 「国土交通省リレー講演会」の取組 7
6. 関西G空間フォーラムin滋賀を開催 8
7. 科学技術週間に体験イベントを開催します 9
8. 「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数 10
9. 2月の報道発表・4月の主な行事予定 10

G空間EXPO2026「G空間がつなく、広がる、未来が変わる」開催報告

G空間EXPO2026「G空間がつなく、広がる、未来が変わる」を1月28日から30日まで東京ビッグサイト(東京都江東区)で会場開催、1月21日から2月13日までオンライン開催しました。国土地理院は、施策展示及びGeoアクティビティコンテストを実施しました。

G空間EXPOは、地理空間情報高度活用社会(G空間社会)の実現に向けて、国土地理院を含む産学官民からなるG空間EXPO運営協議会で開催するイベントです。

今回、日刊工業新聞社との共催で、東京ビッグサイト東7・8ホールにおいて国際宇宙産業展、防災産業展、グリーンインフラ産業展と同時開催しました。会場開催では4展3日間合計で**26,659人が来場し、過去最高の入場者数となりました。**(昨年度は26,338人)

1月28日には酒井庸行国土交通副大臣、30日には宇野善昌内閣総理大臣補佐官が来場し、視察をされました。

【オープニングセレモニー】

オープニングセレモニーは、4展合同で行われ、G空間EXPOからは佐々木俊一内閣官房地理空間情報活用推進室長、渡邊淳内閣府宇宙開発戦略推進事務局審議官、河瀬和重国土地理院長、清水英範日本測量協会長、山本佳世子地理情報システム学会長が登壇しました。



オープニングセレモニー

【講演・シンポジウム】

宇宙飛行士の野口聡一氏が「宇宙と地球がつながるG空間社会の未来へ」と題し講演されました。

また、4展合同講演「未来を拓く持続可能な社会のデザイン～防災×グリーンインフラ×宇宙×G空間技術の最前線」において、国土地理院の

山崎航^{やまさきわたる}地理空間情報企画課長が講演しました。

いずれも、オンライン開催期間はアーカイブ配信されました。

【国土地理院施策展示】

地理空間情報フォーラムでは、産官学民合わせて49の団体が出展しました。

国土地理院のブースでは、適切な国土管理、安全安心な暮らしの確保、持続的な成長、国民生活の利便性向上等に貢献するために国土地理院が実施している施策について、「測る」、「描く」、「守る」、「伝える」の役割に沿ったパネル(地球上の位置や標高成果の整備、3次元地図・高精度標高データの整備など)を展示しました。

また、地理院地図(中・小縮尺相当の背景地図)のリニューアルや3次元地図に関するパソコンでの操作体験、過去に整備した旧版地形図から最新の地図への変遷に関する壁面展示、立体的に見えるデジタル標高地形図についても紹介しました。



国土地理院の施策を紹介したパネル



国土地理院施策展示ブース

【Geoアクティビティコンテスト】

「Geoアクティビティコンテスト」は、次世代のG空間社会を担う人材の育成や、地理空間情報の活用の推進を目的とした国土地理院主催のイベントで、平成24(2012)年から開始し、今回で14回目となりました。

今回は生徒や学生、一般の方から、地理空間情報を活用した独創的なアイデア、新たなサービス等の作品の応募がありました。その中から選考を通過した10者が会場で作品展示するとともに、開催の3日間プレゼンテーションが行われ、来場者や他の参加者との交流がみられました。また、来場者賞を決定するための投票も行われました。

受賞作品は最終日の1月30日15:50に開催した表彰式において発表されました。受賞作品は下表のとおりです。なお、来場者賞以外の受賞作品は産学官の有識者7名で構成する審査委員会において決定されました。

1月21日から2月13日まではオンラインでも開催しました。

G空間EXPO公式ウェブサイトにて、作品予稿をご覧ください。

(<https://g-expo.jp/geocon/>)



Geo アクティビティコンテストに出展された方々



最優秀賞を受賞した宮崎県立佐土原高等学校
情報技術科・産業デザイン科と河瀬院長(左)

G空間EXPO2026にご参加・ご来場いただいた皆様により御礼申し上げます。

国土地理院は、今後も地理空間情報の利活用の推進及び普及啓発に努めてまいります。

Geoアクティビティコンテスト受賞作品

(敬称略)

最優秀賞	「JRにちなび」 佐土原高校とJR九州による日南線列車運行情報アプリ開発	宮崎県立佐土原高等学校 情報技術科・産業デザイン科
来場者賞	歴史教育と地理教育を融合させるカラー3D立体地形教材を開発するためのオープンイノベーション基盤の構築	玉川大学教育学部濱田英毅ゼミ with 工学部デザインサイエンス学科メーカーズフロア
優秀賞	ミエルカ ～特別支援学校に通うこども達の居住地等の見える化～	静岡県立浜北特別支援学校 八幡正信 一般社団法人 GIS支援センター 松村一保
地域貢献賞	学生による福井空襲デジタルアーカイブ ～G空間情報で地域の戦争記憶を未来へつなぐ～	福井県立大学ジオアーカイブ部
奨励賞	防災カードゲーム「私が来たからもう大丈夫！」研究報告 追加要素・高齢者編・地震、津波編開発について	宮崎県立門川高等学校 総合学科地域防災班

(防災・地理空間情報企画センター)

第17回地理院地図パートナーネットワーク会議を開催

1月28日、第17回地理院地図パートナーネットワーク会議を東京ビッグサイト会議棟(G空間EXPO2026同時開催)及びオンラインにて開催しました。

■会議の概要

地理院地図パートナーネットワーク(<https://maps.gsi.go.jp/pn/>)は、地理空間情報活用のオープンイノベーションを目指す情報共有・意見交換の場であり、地理院タイルをはじめとする地理空間情報の活用推進のため、国土地理院、受託開発者及びツール提供者が参加しており、令和8年1月現在、105の受託開発者と、78のツール提供者が登録されています。

地理院地図パートナーネットワーク会議は、地理院地図パートナーの情報共有・意見交換の場の1つとして平成26(2014)年から開催しており、今回で17回目になります。



岡谷隆基地理空間情報部長による開会挨拶

■第17回会議の概要

第17回会議は、国土地理院主催イベントの1つとして、1月28日に東京ビッグサイト会議棟(G空間EXPO2026と同時開催)及びオンライン併用によるハイブリッド方式で開催されました。

第1部では地理院地図及び地理空間情報の活用に関する情報共有として、国土地理院地理空間情報部の阿部誠情報普及課長から地理院地図に関する最近の話題について、基本図情報部の塩見和弘基本図課長から地理院地図(中・小縮尺タイル)のリニューアルについて報告を行うとともに、国土交通省水管理・国土保全局防災課の渡辺亮祐課長補佐から国交省における防災業務での地理空間情報の活用について講演しました。

第2部では地理院地図パートナーからの利活用事例紹介として、4者(日本スーパーマップ 辻村啓悟氏、ESRIジャパン 平松龍騎氏、全国Q地図 辻智樹氏、産業技術総合研究所 西岡芳晴氏)から、地理院地図や地理院タイルの利用等に関して幅広く紹介いただきました。



オンラインでの配信の様子

質疑応答・意見交換では、参加者から多くの質問をいただき、大変盛況のうちに会議は閉会となりました。また、講演内容について、多くの方から「大変参考になった」等、好意的な感想をいただきました。



会議の様子

■動画配信

当日の会議の様子は、YouTubeの地理院地図パートナーネットワーク会議チャンネルから視聴することができます(地理院地図パートナーネットワークのウェブサイトからもアクセスできます)。

▼地理院地図パートナーネットワーク会議チャンネル

<https://www.youtube.com/@地理院地図パートナーネットワーク>

(地理空間情報部)

令和7年度第2回国土地理院研究評価委員会を開催

令和7年度第2回国土地理院研究評価委員会(委員長:島津 弘^{しまづ ひろし} 立正大学教授)を、2月13日に関東地方測量部(東京都千代田区)において開催しました。

国土地理院研究評価委員会は、国土地理院の研究開発に直接関わる専門分野の外部専門家及びそれ以外の外部有識者により構成され、個別の研究課題について詳細な評価を実施しています。評価は、事前評価、中間評価、終了時評価に分かれており、事前評価は、新たに実施する課題に係る概算要求前に実施し、課題設定の妥当性等の評価を行っています。中間評価は、研究開発期間の途中で実施し、目標の達成度等の評価を行っています。終了時評価は、研究開発期間の最終年度に実施し、目標の達成度等の評価を行っています。

今回の委員会では、研究開発期間の最終年度を迎える「SGDASの推計精度向上に関する研究」及び「過去の地形データの作成手法とその活用に関する研究」の2件の特別研究課題に対する終了時評価が行われました。

「SGDASの推計精度向上に関する研究」では、SGDAS(地震発生直後に斜面災害と液状化の発生可能性がある概略位置と規模を推計し、行政機関の災害対応関係者に配信するシステム)の推計精度を向上させ、大地震発生時における初動対応に必要な不可欠な情報を高精度化するとともに、安定性・柔軟性に優れ、推計結果の利用性に優れたシステムへの改良を行うことを研究目的としており、研究目標を達成することができました。

本研究成果の説明後、委員からは4段階中最も高い総合評価をいただくとともに、以下のご意見をいただきました。

- ・SGDASとしての目標達成だけでなく、地形・地質ゾーニングマップなど、一般の社会に役立つ中間成果が多く得られたことについて、非常に良い成果を出したと評価する。
- ・中間成果は社会へ向けての発信として、閲覧しやすい形での公表をお願いしたい。
- ・研究開発期間が終了した後も、システムの更新、データの充実、新たな研究成果の取り込みなど引き続きアップデートを期待する。

もう1件の「過去の地形データの作成手法とその活用に関する研究」では、地形分類のうち、1960年代～1980年代の人工改変地の効率的な把握を可能とするため、過去の地形データの作成方法を確立し、1960年代の地形データを作成することを研究目的としており、研究目標は概ね達成することができました。

本研究に対しても4段階中最も高い総合評価を委員からいただくとともに、以下のご意見をいただきました。

- ・今後はSGDASをはじめとした他の成果との連携を検討いただきたい。
- ・公開データは完全に正しいものと認識される傾向がある。そのため、データの公開に当たっては、フィルタリング条件によって結果が変わることなども周知いただきたい。

本委員会でのご意見等を踏まえ、今後も本研究に関連する取組を適切に進めてまいります。国土地理院の研究評価の概要は以下のURLをご覧ください。

<https://www.gsi.go.jp/REPORT/HYOKA/hyoka-1.html>



委員会の様子

(企画部)

第250回地震予知連絡会の開催概要

2月20日に関東地方測量部において第250回地震予知連絡会がオンライン会議併用形式にて開催され、全国の地震活動、地殻変動等のモニタリングについての報告のほか、重点検討課題に関する報告・議論が行われました。

地震予知連絡会では、地震予知研究にとって特に検討すべき課題を「重点検討課題」として選定し、報告とそれを基にした議論を行っています。今回は「熊本地震から10年－地震像と今後の課題－」を課題として、以下の①～⑤の報告がありました。

① 九州中部の長期テクトニクス再考

九州中部をとりまく長期(過去500万年)のテクトニクスは、様々な地質学的要素が影響し、日本列島の中でもとりわけ複雑です。九州中部における地層から古応力を推定した結果、鮮新統(約300万年前)の地層では、東西圧縮、南北引張の横ずれ断層型応力場と南北引張の正断層型の応力場が検出されましたが、中部更新統の地層は東西圧縮の斜め横ずれ型の応力場であり、明瞭な正断層型の応力場は認められませんでした。また、約300万年前以降の九州中部の応力場は、中央構造線に関連した横ずれ応力が支配的であることを示しています。長期のテクトニクスや大規模火山活動で生じた複雑な地質構造が、2016年熊本地震の震源過程に影響を及ぼしている可能性があります。

② 熊本地震に伴う断層すべりの阿蘇カルデラ内への貫入とその後の挙動

熊本地震に伴う布田川断層のすべりは阿蘇カルデラ内部に貫入し、北側の右横ずれ系と南側の左横ずれ系の2系統に分岐しました。断層すべりの終端部には高温の流体に富む低密度域が存在し、断層すべりの停止に寄与した可能性が示唆されます。地震後、カルデラ内における沈降は長期にわたり進行し、地震時に貫入した断層の余効すべりでほぼ説明ができます。カルデラ内の断層における余効すべりの時間変化は、断層終端部における熱水環境に支配された弱い地殻構造を反映している可能性が示唆されます。

③ 2016年熊本地震の背景と現在までの地震活動から見えること

熊本地震は複雑な力の場で発生し、断層は複雑な形状で分岐をしていました。断層面が決められれば、より高い精度の強震動予測の可能性があります。b値(地震がどれくらい起こりやすいかを示す指標)と臨界度(地震が起こりやすい状態を測る度合い)を併用すると地震発生ポテンシャルをより詳しくモニターできる可能性があります。M6.5の前震の前には震源付近で臨界度が高く、地震が起

こりやすかった可能性があります。日奈久断層南部では余震活動が活発であり、断層に力がかかり続けていると解釈できます。いつ・どのくらいの地震が起こるかは予測できませんが、稠密な観測、調査を継続し、地震活動の変化の検出に取り組む必要があります。

④ 2016年熊本地震に伴う地表地震断層上での古地震調査

2016年熊本地震を引き起こした布田川断層の周辺に広域に出現した地表地震断層(二次的な断層)上で古地震調査を実施しました。それらの多くには、2016年より前にも活動していた痕跡が見出されました。古地震調査の結果、布田川断層は最近7300年間で4回(2016年含む)活動した可能性が高いです。最近7300年間の二次的な断層上の活動履歴情報と比較した結果、布田川断層の活動とそれら二次的な断層の活動の同時性が認められました。ただし、活動時期の年代制約は十分でなく、現状の古地震調査の限界も示しています。

⑤ 比抵抗構造と断層破壊の関係についての研究例

2016年熊本地震や1997年鹿児島県北西部地震等におけるすべり分布と比抵抗構造の位置関係から、大地震の破壊域は2つの電気伝導度が高い低比抵抗体に挟まれており、低比抵抗体の端部から破壊が開始する傾向があります。また、それらの破壊は、別の低比抵抗体によって停止する傾向があります。2016年熊本地震の本震は、一部の低比抵抗領域を乗り越えて断層破壊が伝搬したものの、阿蘇カルデラ直下の低比抵抗体の存在により停止した可能性があります。

○次回の会議開催予定

第251回地震予知連絡会は、5月21日(木)に開催予定です。また、次回の重点検討課題は「[情報科学を活用した地震調査研究](#)」です。

○会議資料の公開

本会議の資料は、地震予知連絡会ホームページから公開されています。

<https://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activitiy.html>

(地理地殻活動研究センター)

「国土交通省リレー講演会」の取組

中国地方測量部は「広島市豪雨災害伝承館(広島県広島市安佐南区)」において、広島地方気象台及び中国地方整備局広島西部山系砂防事務所と輪番で、「国土交通省リレー講演会」を令和6年2月から実施しています。

●令和7年度の取組

中国地方測量部では、令和7年度に次の3回を担当しました。

(1)令和7年5月

「地理院地図の使い方」と題して、^{たかはしひろのり}高橋広典防災・地理空間情報管理官が、以下の内容について、実演を交えて紹介しました。

- ・「地理院地図」の基本操作
- ・第二次世界大戦前から現在までの年代別の写真の見方
- ・各種災害リスク情報の重ね合わせ表示方法
- ・防災マップ作成に活用できる上乗せ情報の作成とその共有方法

(2)令和7年10月

「自然災害伝承碑から学ぶこと ―過去と未来を繋ぐ道しるべ―」と題して、広島大学大学院人間社会科学部研究科/教育学部の^{くまはらやすひろ}熊原康博教授から、実際の事例を通して、自然災害伝承碑に刻まれた教えから私たちが何を学び、どのように未来の防災に活用できるのかについてご紹介いただきました。



令和7年10月の講演の様子

また、10月の講演にあわせて、同館にてパネル展「次代へ継ぐ自然災害の警鐘”自然災害伝承碑”」を6日間開催しました。広島及びその周辺地域にある自然災害伝承碑を紹介するパネルなど十数点を展示し、多くの方に来場いただきました。



パネル展の様子

(3)令和8年1月

「私たちが暮らす日本列島はいつも動いています～日本の地殻変動と新たな標高について～」と題して、^{むらかみかつあき}村上克明次長が、以下の内容を分かりやすく紹介しました。

- ・日本列島が動き続ける理由
- ・その変動の測り方
- ・昨年4月に更新された日本の標高

講演会の参加者からは、「地形による災害リスクが参考になった」「わかりやすく話していただけで良く理解できた」「国土地理院の講演では初めて聞く話が多く毎回楽しみにしている」等の声をいただきました。

次回の当部担当のリレー講演会は、5月10日(日)に『南極観測での国土地理院の役割』～第50次南極観測隊員による体験談～と題して実施予定です。

中国地方測量部では、今後も地元関係機関と協力して地域防災に貢献できるよう、取組を継続してまいります。

(中国地方測量部)

関西G空間フォーラム in 滋賀を開催

地理空間情報活用推進に関する近畿地区産学官連携協議会(会長:大阪工業大学^{よしかわしん}吉川眞名誉教授、事務局:近畿地方測量部)の活動の一環として、2月6日に滋賀県建設技術センター(滋賀県草津市)において、関西G空間フォーラムin滋賀を開催しました。

関西G空間フォーラムは、地理空間情報を高度に活用する社会(G空間社会)の実現に寄与するため、産学官が一堂に会し地理空間情報の活用に関する情報共有や意見交換を行い、将来を展望することを目的に開催しています。毎年大阪市で開催(今年度は10月9日)するとともに、大阪府以外の1府4県でも地域に密着した活動として順次開催しています。今年度は、「地理空間情報の高度活用による新たなG空間社会と湖国の発展」と題して、滋賀県草津市で開催し、90名の来場がありました。フォーラムでは、講演会のほか、地理空間情報等の利活用と機器・システム等の展示会が行われました。



講演会会場の様子

【講演会】

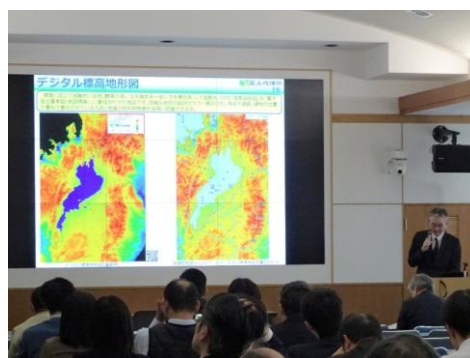
講演会では、地理教育、防災、地理空間情報の活用等に関する4つの講演が行われました。

前半の基調講演では、滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授^{かがわゆういち}香川雄一氏より「大学におけるGIS教育の現状と高大連携に見るGIS普及の課題」と題して、大学におけるGIS教育と、高等学校で必修化された地理総合におけるGIS教育について講演していただきました。国土地理院からは、特別講演として^{なかむらたかゆき}中村孝之応用地理部長が「防災・減災に役立つ地理空間情報の整備と活用」と題して、活断層図や地形分類、自然災害伝承碑などの防災地理情報の整備(滋賀県を中心に)と防災・地理教育も含めた活用、琵琶湖の湖沼調査などについて紹介しました。

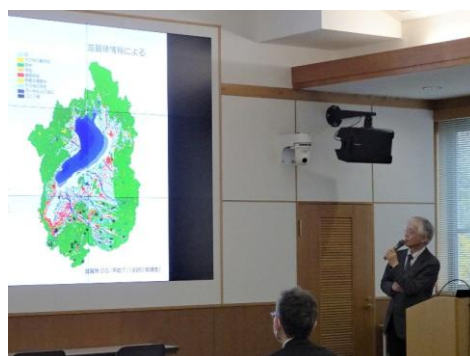
後半は、滋賀県土木交通部技術管理課主幹^{はらてつろう}原哲郎氏より、「滋賀県のGISとインフラDXの取組」と題して、滋賀県におけるGISへの取組について講演していただきました。そして、後半の基調講演として、立命館大学総合科学技術研究機構教授^{ふかがわりよういち}深川良一氏より「近年における滋賀県の土砂災害とその傾向」と題して、近年の主な土砂災害について、昭和28年多羅尾豪雨災害、平成25年栗東土砂災害、令和6年伊吹山土砂災害(獣害)を中心に講演していただきました。



香川教授による基調講演



中村応用地理部長による特別講演



深川教授による基調講演

【地理空間情報等の利活用と機器・システム等の展示会】

展示会では、滋賀県建設技術センターが令和7年4月にリニューアルしたインフラDXブース(常設展示)の360度カメラの操作体験や、重機シミュレータ、ラジコン、VRなどの体験のほか、3次元点群データを取得できる最新のLiDAR製品などの測量機器や地理空間情報を活用したシステムを紹介するパネル展示が行われました。

近畿地方測量部からは、特別講演に関連するパネルとして、滋賀県内の自然災害伝承碑や活断層図などの防災地理情報、湖沼調査、防災・地理教育支援コンテンツに関するパネルのほか、国土地理院が現在進めている「電子国土基本図の3次元化」、「高精度標高データの整備」や衛星画像とAI技術を用いた電子国土基本図の整備・更新の効率化を目指した技術開発を紹介したパネル展示を行いました。



展示会場の様子

来場者からは、「地形と災害リスクの関係性の話が興味深かった」「地理院地図で地形を確認する方法や、災害伝承碑など災害リスクを確認する様々な手段があることを知ることができた」「重ねるハザードマップの活用例、伝承碑による防災減災への貢献等が印象に残った」「明治29年琵琶湖洪水に関心があるので、自然災害伝承碑を参考に現地を訪れてみたい」といった感想が聞かれました。

近畿地方測量部では、今後とも地理空間情報活用推進のため、産学官で連携を図りながら、地域に密着した関西G空間フォーラムの開催を進めてまいります。

(近畿地方測量部)

科学技術週間に体験イベントを開催します

地図と測量の科学館(茨城県つくば市)では、「※科学技術週間」中の4月18日(土)に、「測量用航空機くにかぜの機内公開」(雨天時は歩測チャレンジ)と、「日本列島地図一筆描き」を実施します。

機内公開は、くにかぜに搭乗体験ができる貴重なチャンスです。また、日本列島地図一筆描きは、一筆で描いた日本列島をコンピューターが採点する人気のイベントです。

この機会にぜひご体験ください。

※科学技術について広く一般の方々に理解と関心を深めていただき、日本の科学技術の振興を図ることを目的として昭和35年2月に制定されました。毎年4月18日の「発明の日」を含む1週間(月曜日から日曜日)は「科学技術週間」と定められており、全国の各機関では、おもにこの期間に各種科学技術に関するイベントなどを実施しています。

(総務部)



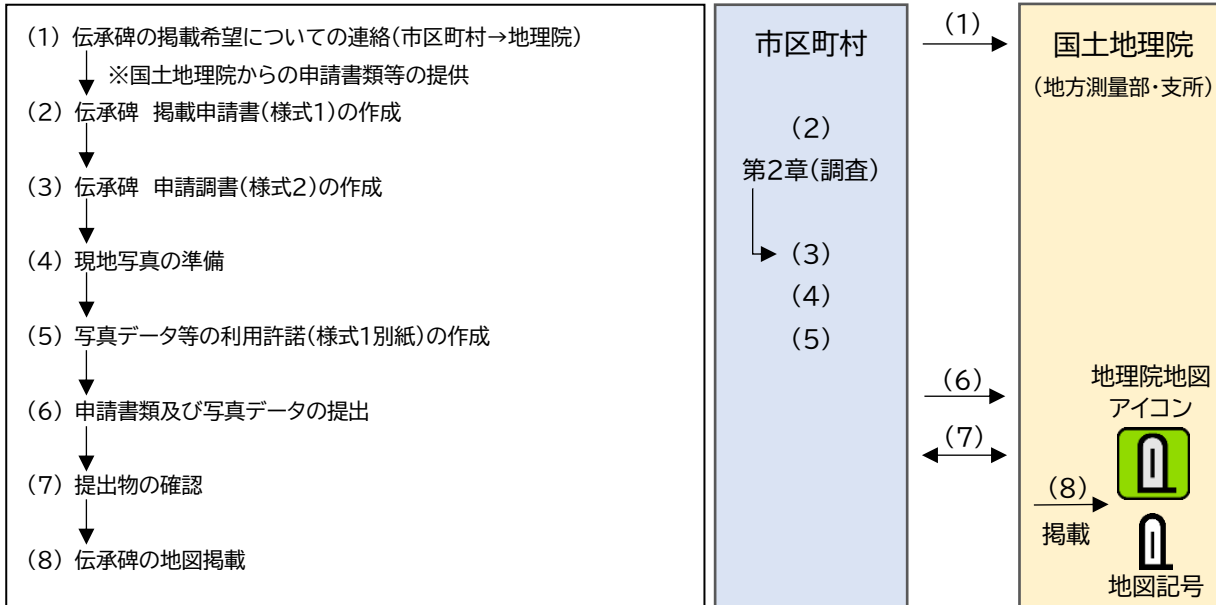
○「自然災害伝承碑」ウェブ地図「地理院地図」での公開数

令和8年3月25日現在

47	都道府県	676	市区町村	2416	基
----	------	-----	------	------	---

詳細については、自然災害伝承碑のページ(<https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi>)をご覧ください。
 [市区町村の担当者の皆様へ]自然災害伝承碑に関する当院への情報提供にご協力をお願いいたします。

自然災害伝承碑の申請の流れ



様式や手続きの詳細は「自然災害伝承碑に係る調査業務 実施の手引き 第6版(令和6年3月)」(https://www.gsi.go.jp/bousaichiri/denshouhi_info.html)をご覧ください。

○2月の報道発表

発表日	件名	担当部署
5日	ジオAI(地理空間情報×AI)の推進に向けた議論を開始します！ ～「ジオAI研究会」(第1回)の開催～	防災・地理空間情報企画センター
9日	令和8年1月の地殻変動	測地観測センター 地理地殻活動研究センター
25日	測量行政懇談会(第32回)の開催について	総務部

報道の内容は、国土地理院ホームページ>2026年 報道発表資料一覧(<https://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2026.html>)をご覧ください。

○4月の主な行事予定

月日	行事
3/24~6/21	地図と測量の科学館 企画展 「「地図と測量の科学館」開館30周年記念特別展」

国土地理院広報は、
 国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報
 (<https://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/>)に掲載しています。

発行 **国土交通省国土地理院**
 Geospatial Information Authority of Japan
 〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
 TEL 029-864-6255
 FAX 029-864-6441

連絡先:総務部広報広聴室
 国土地理院ホームページ
<https://www.gsi.go.jp/>

